校 長 室 だ よ り（No.34）

令和５年３月27日
丹波市立黒井小学校長
谷口　千尋

多くの人にかかわっていただいた１年間

今年度もあと数日で終了です。令和４年度、ここ黒井小学校では187名の児童が１年間学びました。多くの皆さまにお世話になり、187名が、みんな揃って進学・進級できますことを大変嬉しく思います。

「安全を大切にできる子に育てていただいたことに感謝いたします。」

「自分の身は自分で守る」という危機管理はこれからの社会において子どもたちに身につけておいてほしいことです。登下校中や休日など子どもたちしかいない場合に危険に遭う場合もあります。その際、子どもたち自身が、どんな危険が潜んでいるか気付き、そのことがどんな事故等を招くのかを予想し、その事故を避けるためにどのように対応をするかなど、危険を予測し、自ら回避することが必要です。安全は、いかなる状況下でも子どもたちが自ら考えて判断できる能力を育てていかなければなりません。例えば、地震や豪雨、大雪など地域特有の自然災害等に対しては、今住んでいる地域だけでなく、新しい環境においても、周囲の状況等に関する情報を収集し、安全な行動をとることができるよう、安全に対する姿勢を育てておくことが大切だと感じています。守ってもらうことの多い低学年から、守る立場にならなければならない高学年へと様々な人にかかわっていただいて育てていただいたと感じています。

「様々な課題に対して主体的に取り組めるようにしていただいたことに感謝いたします。」

「主体的に学ぶ」とは、一言では難しいですが、学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる学びのことだと思います。学校においては、各教科等の授業においても授業の中でめあて・ねらいの提示や、振り返り活動を繰り返しています。子どもたちが見通しを持てる単元の工夫や、自らの学びを実感できるまとめ・振り返り場の設定を大切にしてきました。各家庭においても子どもたちの学習上の課題を把握していただき興味を持って学習できるようにしてくださったことに感謝いたします。また、地域の皆さまには、ゲストティーチャーや講師として来校いただき、地域の歴史・文化をはじめ特産物、昆虫等、様々な教材を通して学ぶ楽しさやおもしろさに気づかせていただきました。

「人権についてしっかりとした考えが持てるようにしていただいたことに感謝いたします。」

自分の大切さとともに、他の人の大切さを認めることができるために必要な人権感覚は、子どもたちに対して、言葉で説明するだけで身に付くものではありません。このような人権感覚を身に付けるためには、各家庭をはじめ生活全体の中で自らの大切さが認められていることを子どもたち自身が実感できるような状況をつくることが大切です。一人ひとりの子どもたちが、自らについて一人の人間として大切にされているという実感を持つことができる時に、自己や他者を尊重しようとする感覚や意志が芽生え、育つことができると考えます。１年間、各家庭においても、学校との温度差なく、この課題に正対いただきましたことに感謝いたします。